

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大蔵 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話すこと・聞くこと」に対する正答率がやや高く、目的や意図に応じて伝え合う内容を検討する力の高まりが見られる。「読むこと」「書くこと」については、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることや、目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にすることを問う問題に対する正答率が低い。
	よくできた問題	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題

算数	全体的な傾向や特徴など	図形や速さなど数量の変化、二次元の簡単な表から必要なデータを読み取る問いに対する正答率が低い。「わけを言葉や数を使って書きましょう。」などの記述で答える問いに対する正答率も低い。
	よくできた問題	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題
	努力が必要な問題	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「1日当たりどれくらいの時間、ゲームをしますか。」の問いに対して、80%近くの児童が「1時間以上」と回答した。それに対し、「学校が休みの日にどのくらいの時間、勉強しますか。」の問いに対し、「1時間以上」と回答した児童は、わずか4%だった。宿題を適切に課し、家庭との連携を取るなどして、家庭学習を習慣化できるようにすることが必要である。 ・「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする学習に取り組んでいますか。」の問いに対して、全児童が肯定的に回答した。今後も「楽しい・分かる・身につく」授業の創造に努めたい。 ・「国語、算数、理科、英語の勉強が好きですか。」に対する肯定的な回答が少なく、一方で「各教科の勉強は大切だと思いますか。」に対する肯定的な回答は高かった。児童にとって、授業が「楽しい」「分かる」ものになるよう、授業改善を行う必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・宿題を適切に課し、朝の学習で教師が解説する時間を設け、基礎基本の定着を図る。
- ・「楽しい・分かる・身につく授業の創造」をテーマに授業改善に取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・児童や保護者への生活アンケートを学期に一度行い、実態を把握するとともに、改善が必要な部分については学校通信や学級通信を通して、家庭学習への取組み方を示していく。
- ・中学校教員による乗り入れ授業（算数科・英語科・音楽科）を実施し、より専門的な指導を受けることで学習への意欲の向上を図る。